

■事業の概況

本年度は、経営3か年計画“にしんチャレンジ2024”の中間年度として、「地域社会・顧客の発展に繋がる支援力・営業力・組織力の強化」、「金庫組織体制・営業態勢の強化」、「職員人材力の強化」、「業界総合力の発揮」を重点戦略とし、地域やお客さまの支援に全力で取り組むとともに、生産性の向上、収益力の一段の増強に取り組んでまいりました。また、職員の意識・行動面での変化、更なる活力の発揮を喚起して、地域やお客さまに貢献する存在であり続けることで、持続可能なビジネスモデルの構築を目指してまいりました。

わが国経済は、緩やかな回復基調が続いているものの、物価高の継続により個人消費は伸び悩んでおり、世界的な政治・経済情勢の不確実性の増大も相まって、先行きは不透明な状況に置かれています。地域経済においては、人口減少、少子高齢化が進むなか、人手不足や原材料価格の高騰、価格転嫁の遅れなど、中小企業の経営課題は多様化し、取り巻く経営環境は厳しい状況が続いています。

このような経済環境のもと、地域で最も身近な金融機関である信用金庫においては、地域のお客さまが抱える課題の解決に取り組み、地域の持続的な発展の実現に向けて、地域経済に貢献する力を発揮していくことが求められています。

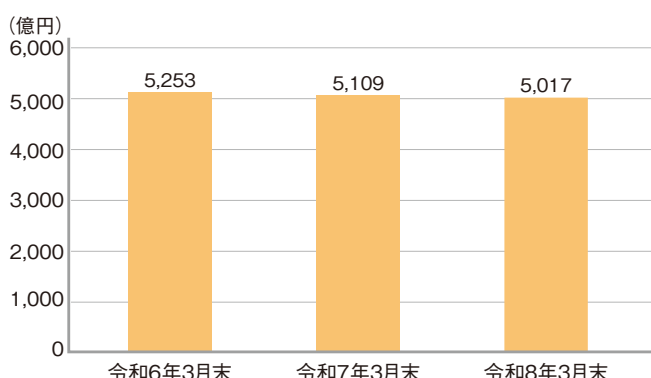
このような環境のなか、収益性の改善に向け、経費の削減、営業態勢の強化による生産性の向上に取り組んでまいりました。

当期の業績は、会員の皆さまをはじめ、お取引先の皆さまのご支援のもと全役職員が重点戦略に沿って業務を推進してまいりました結果、以下のとおりとなりました。

預金積金

公金預金の減少等により、期中92億円減少して期末残高は、5,017億円となりました。

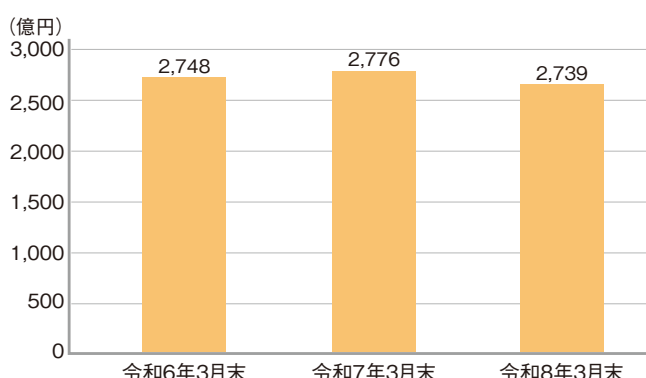
■預金積金残高の推移



貸出金

個人向けは増加しましたが、事業者向けの減少により、期中36億円減少して期末残高は、2,739億円となりました。

■貸出金残高の推移



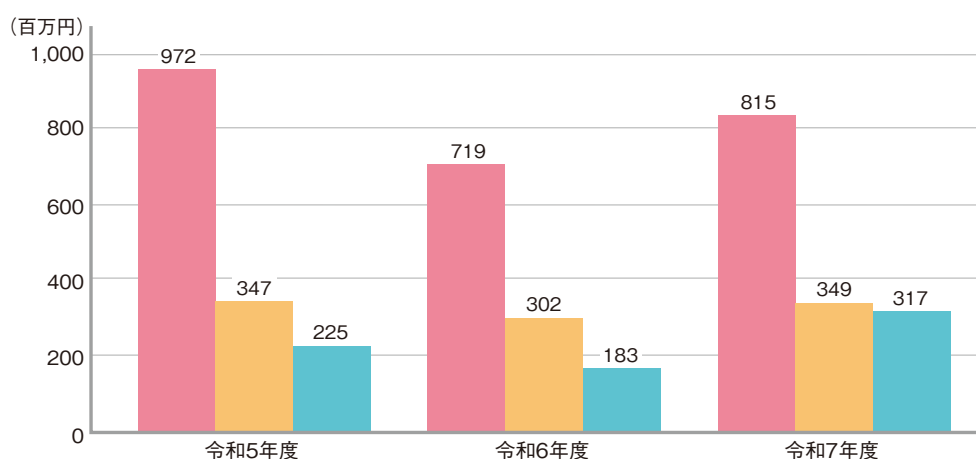
収益の状況

業務純益は、資金運用収益の増加などにより、前期比96百万円増加して8億15百万円となりました。

経常利益は、業務純益の増加を主因に、前期比46百万円増加して3億49百万円となりました。

当期純利益は、前期比1億34百万円増加して3億17百万円となりました。

■収益の状況 (業務純益 経常利益 当期純利益)



■自己資本比率

自己資本比率は、金融機関の経営の健全性を示す代表的な指標です。一般的には総資産に占める「自己資本」の割合のことで、この自己資本比率が高いほど経営が健全で安定しているとされています。

国内業務に特化する金融機関である信用金庫では、国内基準の4%以上が必要になります。

当金庫は、健全経営による自己資本の充実に努めています。令和7年度の自己資本比率は、前年度比0.19ポイント上昇して9.75%となりました。

なお、この比率は、国内基準に適用される4%に対し、2倍を超える水準にあります。

■自己資本比率の算出方法について

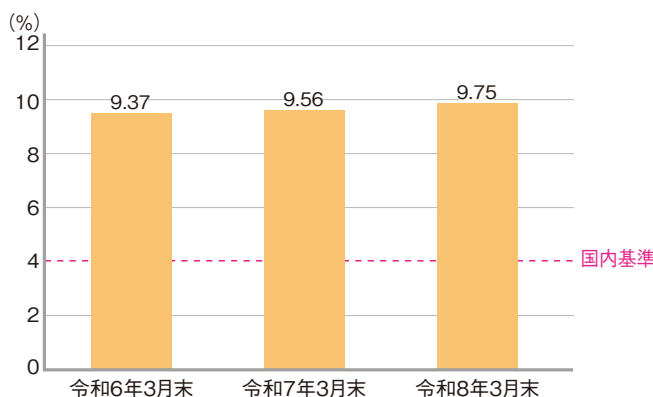
自己資本比率の算出方法は、出資金や利益準備金、特別積立金等の自己資本額を分子とし、リスクが発生する可能性がある「資産(リスク・アセット等)」を分母として計算します。

詳細は36ページに掲載しておりますので、ご参照ください。

■にしんの自己資本比率(令和8年3月末)

$$9.75\% = \frac{20,274 \text{ 百万円 (自己資本額)}}{207,804 \text{ 百万円 (リスク・アセット等)}} \times 100$$

■自己資本比率の推移



当金庫は、これからも自己資本の充実に努め、お客さまに安心してお付き合いいただける健全な金融機関を目指します。

■信用金庫法及び金融再生法開示債権

不良債権の処理促進の方針に基づき、貸出金の償却を行った結果、信用金庫法及び金融再生法に基づく開示債権は前年度比5億84百万円減少して169億39百万円となりました。

なお、信用金庫法及び金融再生法開示債権比率(不良債権の総与信に対する割合)は、前年度対比0.13ポイント減少して6.16%となりました。

信用金庫法及び金融再生法開示債権に対する保全状況は、貸倒引当金及び担保・保証等による保全額が151億33百万円(保全率89.33%)となります。

当金庫は、これからも不良債権の発生の未然防止と処理促進に努めてまいります。

■信用金庫法及び金融再生法開示債権保全状況

(単位:百万円)

開示区分	令和7年3月末	令和8年3月末
信用金庫法及び金融再生法に基づく開示債権(A)	17,523	16,939
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	4,567	5,253
危険債権	11,190	9,896
要管理債権	1,766	1,788
三月以上延滞債権	—	—
貸出条件緩和債権	1,766	1,788
正常債権	260,789	257,672
保全額(B)	15,650	15,133
担保・保証等	12,564	11,957
貸倒引当金	3,085	3,175
保全率(B/A)	89.31%	89.33%

■信用金庫法及び金融再生法に基づく開示債権比率の推移

